

# 平成 楽しむ 惜しむ

## 特製グッズ ■ 回顧展 ■ 駆け込み婚

新元号が4月1日に発表される。残り1か月となった「平成」にちなんだグッズ販売や催しが、平成との別れを惜しむ人たちの人気を集めている。

〈関連記事2面〉

### 新元号あす発表

大阪市福島区の企画会社「ヘソプロダクション」は、「平成」の文字をあしらった靴下やまんじゅう、キーホルダーなど10種類以上のグッズを販売している。3月初めからJR主要駅やインターネットで売り出したところ、下旬になって問い合わせが急増した。イチ押しは「平成トランプ」(税抜き800円)。カードに「メークドラマー(1996年)」、「アラフォー」(2008年)といった平成の流行語が書かれた、遊びながら、思い出話

「平成」にちなんだトランプや靴下、まんじゅうなどの商品(大阪市福島区で)＝川崎公太撮影



に盛り上がったのもう一つ趣向だ。

社長の稲本ミノルさん(43)は「今回の改元は『追悼』ではなく、明るく時代を見送ることができる。楽しもうと思う人が多いのでは」と話す。

江崎グリコが運営する「江崎記念館」(大阪市西淀川区)では昨年10月から平成に入ってからキャラメル菓子のおまけを集めた特別展を開催中。3月は1972年の開館以来、最多の来館者数を記録した。

記念館によると、昭和の頃のおまけは家具や指輪など身の回りのものが多かったが、平成は、サイズが大きくカラフルになり、動く動物模型やミニ絵本など「親子のコミュニケーション」を意識したものが主流になったという。

30日、同館を孫と訪れた

兵庫県伊丹市の杉田朝子さん(55)は「私が子供の頃のおまけは集めるだけだったけど、平成では動かして遊べるものが多いですね。次の時代はどんな変化があるのか楽しみ」と眺めていた。意外なニーズがあるのは、改元までに結婚式を挙げる「駆け込みプラン」だ。冠婚葬祭ビジネスのレック(神戸市)は全国23か所にある直営の小規模式場で、4月30日までに挙式すれば約3割安くなるキャンペーンを実施。3〜4月の利用希望者数は例年より10%伸びたという。